

おぼして人をめしてまかくの物著たる小童たが供の者ぞとたづね給ければ主の思はん事をはかりて、とみに申さざりけれど、まゐて問給ふに、力なくて某の童にこそと申けり、即ち主めして其童參らせよと仰られければ、いとおしくまてつかひ給に、ねびまざるまゝに、心ばせおもふばかりにふかくわりなきものなりける。○下

〔古今著聞集和五〕基俊城外まける事有けり、道に堂のあるにむくの木有、その木に六歳ばかり成小童のぼりてむくを取てくひけるに、こゝをば何といふぞと尋ければ、やしる堂と申とこたへけるを聞て、基俊なにとなくちさみに童にむかひて、

この堂は神か佛かおぼつかないといひたりければ、此わらはうち聞てとりもあへず、

ほうしみこにぞとうべかりける、といひけり、基俊あさましくふしぎに覺て、この童はたゞものにはあらずとぞいひける。

〔袋草紙三〕壬生忠見幼童之時、内裏ヨリ有召、無乗物テ難參之由ヲ申ニ、而竹馬ニ乗テ可參之由有御定、仍進此歌、

たけむまはふしかげにしていとよほしいまゆふかげにのりてまゐらん

〔續古事談王道后宮〕河内前司重通ト云者、童ニテ西宮ニアリケルニ、ミチアシカリケル所ニ、○下

〔醒睡笑一被謂物之由來〕わらんべは風の子としるしらす世にいふは何事ぞ、ふうふのあひだのなればなり、

〔古今和歌集二十〕さがみうた

こよろぎのいそたちならしいそなつむめざしぬらすなおきにをれ浪

〔古今和歌集打聞二十〕めざしはわらはべを云、兒のひたひ髪の末をそぎたるが、目をさす如くおほひたるをもてめざしといひ、それがたゞにわらはべの事となれる也、うなるにてかぶる

めざし